



社会の変化に対応した活動の見直し

かつては、「十年ひと昔」と言っていましたが、年々社会の変化が目まぐるしく、今では1年でも時代遅れの感があるように思います。

特に、ICTや通信技術の発達には驚かすほど、小学生の大半が携帯電話を持つ時代です。私は電車通勤していますが、電車の中では、私以外の大半の人がスマートフォンと睨めっこをしています。満員電車の中で、いい年を召した方が、ゲームに夢中になっているのは、あまり感心したものではありません。

人的な面を見ますと、海外との交流も盛んになり、福岡市内のあちこちで外国の方を見かけます。日常的に当たり前になってきましたので、正に、外国人と共生する社会の到来と言えるでしょう。

博多駅コンコースのクロワッサン店の前には、いつも大勢の人が列をなしています。その大半は、片手にガイドブックを持った韓国からの観光客です。

こんな社会の変化の激しい時代だからこそ、附属幼稚園が当たり前のように実施してきた行事や活動を、①伝統として残すべき不易の活動、②社会の変化に応じて取り入れた方がよいと思われる活動、③幼稚園教育要領が示した10の姿に対応した活動などの面から見直し、精選を行う時期が来ました。

従って、これまで実施していた活動がなくなることもあるし、逆に、時代の流れで取り入れなくてはならない活動もあることをご承知おきください。

NHKのニュースで、2020年から小学校で導入が計画されているプログラミング教育を、先取りして実施している幼稚園について放映されていました。

今年度、保育時間に英語を取り入れた保育園があり、園児に好評であるという話も聞きました。自園を、新しい波に上手に乗せて舵取りしていくのがよいのか、それとも、深海魚のように海底深くじっと潜み、潮の流れを見送る方がよいのか……？



幼児教育を学びに来た東南アジアからの留学生

年長さん伝統の味噌作り

6月の第1週に、年長の3クラスが、遊戯室にて幼稚園の伝統的な活動である味噌作りを行いました。遊戯室から香しい味噌の匂いが、廊下まで漂ってきます。この匂いを嗅ぐと、もうすぐ本格的な夏の到来とともに、これぞまさしく“附属幼稚園！”と感じます。

これまで、担任が、苦勞して模造紙に書いて説明していましたが、今年は、文明の利器である電子黒板を駆使しての説明です。時間の流れに沿って図解説明できたので、子どもたちも目と耳で聞き取り、作り方の手順を容易に理解できたようです。ボランティアで見えたお母さん方も手順が分かり、手際よく子どもをサポートされました。お陰で、予定通り甕に仕込むことができたようです。初めてお手伝いを経験されたお母さんからは、「結構きつかったけど、楽しかった。早く味噌を食べてみたい。」という声が聞かれました。



園歌をYouTubeで聴けますよ

今年から、宗教的な行事以外で全員が集まるような集会では、必ず、園歌「みんながたからもの」を歌うようにしています。そこで、今、各クラスでは、帰りの集いや歌の時間を使って、園歌を歌っています。少しずつ、子どもたちの愛唱歌になってきているようです。

また、年長の保護者の戸田さんにより、YouTubeで園歌を視聴できるように、配信のお力添えをしていただきました。保護者の皆さんも動画を見ながら歌を聴くことができます。是非、パソコンか携帯を開いていただき、お聴きください。

SNSでは、作詞者の松井五郎先生もコメントを出しておられるからでしょうか、配信されてすぐに300回以上視聴されているようです。

西日本新聞でも記事発表されるとアナウンスしましたが、今日、現在では、まだ連絡がありません。

しかし、近いうちに報道されると思いますから、楽しみにお待ちください。